

■7月13日

タイ・エアアジア(LCC)、国内郵便事業と提携

(バンコク週報によると)

タイ・エアアジアが、国内の郵便事業を担う「タイランドポスト」と業務提携を結び、EMS(エクスプレスメール)のサービス提供を開始すると発表した。

当面、サービス範囲は、北部チェンマイと南部プーケット、ハジャイの3カ所のみだが、本格稼働する2014年には、午前10時30分までに受け付けたEMSが同日内に配達されるようになる。

貨物部門の年間売上は2億パーツ以上に上り、今回の業務提携について「財務基盤強化計画の一環」と説明している。

売上の内訳は現在、航空券販売が84%を占めるが、EMS事業を開始することで航空券以外が1%上昇するとみられている。

(バンコク週報)7/12

http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2347 (-> http://www.bangkokshuho.com/article_detail.php?id=2347)

イージージェット(LCC)、エアバスA320系列、135機購入確定

イージージェットは、100機のエアバス『A320neo』と35機の『A320ceo』の合計135機のエアバスA320系列の飛行機の購入を確定した事を発表した。

イージージェットはロンドンのLutonに本社を置くLCCで、1年に5500万人の乗客を運び、ヨーロッパで最大のA320系列の顧客と運用者である。

(レスポンス)7/12

<http://response.jp/article/2013/07/12/202070.html> (-> <http://response.jp/article/2013/07/12/202070.html>)

ジェットスター・ジャパン(LCC)、松山線、就航一か月、好調に推移

6月11日に新規就航した松山—成田線は、就航から1か月を迎え、搭乗率は非公表ながら、同社は「好調に推移し、週末はほぼ満席」ということを明らかにした。

また、運航状況については、7月10日現在欠航はなく、1時間以上の遅延も乗客の事情が影響した1便のみ、中四国初の国内線LCCは順調に離陸したようだ。

(愛媛新聞)7/12

<http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130712/news20130712000.html> (-> <http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130712/news20130712000.html>)

伊丹空港、ターミナルビル改修、2020-21年完成予定

(神戸新聞によると)

経営統合から1年が経過した新関西国際空港会社の安藤圭一社長は11日、神戸新聞社のインタビューに応じ、大阪(伊丹)空港のターミナルビル改修について、完成は2020~21年になる見通しを示した。本年度内の着工を予定しており、テロ対策として出発口と到着口を別の階層に分離する。

1969年開業の大阪空港のターミナルビルは老朽化が進み、搭乗口が南北に分かれるなど利用しづらい構造となっている。新関西空社は利便性向上と利用者増加を目指し、昨年7月に発表した経営戦略にターミナルビル改修を明記した。

安藤社長によると、ビルを運用しながらの大規模改修となるため、完成は7~8年後になるという。改修後のターミナルビルは、搭乗口を中央エリアに集約した上で、保安対策強化のため出発口を3階、到着口を2階として動線を分ける。動く歩道も設置し、利便性を高める。現在はビルを運営する「大阪国際空港ターミナル会社」の株式取得に向けた

準備を進めており、今秋ごろ完了する見込み。

(神戸新聞)7/12

<http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201307/0006151615.shtml> (-> <http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201307/0006151615.shtml>)

FDA、名古屋—青森便、早朝便を増便、1日3便へ

フジドリームエアラインズは12日から青森—名古屋便を現在の1日2便から1日3便に増便した。昼夜2便体制に早朝便が新たに加わり選択肢が増えたことで、日帰りのビジネス利用などの増加を狙う。

青森と中部地方を結ぶ路線は2010年10月に日航が運休して途絶えていたが、より小型の機体で定員を絞り、11年7月にFDAが1日1便で就航。12年4月には2便になった。

搭乗率は順調に推移しており、6月は73・1%で前年同月比3・7ポイント増。就航後1年間の平均でも69・9%と安定。利用者の多くは観光利用で、今年は伊勢神宮の式年遷宮の20年周期の節目で、増加を見込む。

また青森県は今年度から旅行会社に利用者の少ない青森県南地域から空港までのバスチャーター代で補助を始めるなどこ入れを図っている。

(朝日新聞)7/13

http://digital.asahi.com/area/aomori/articles/TKY201307120416.html?ref=comkiji_txt_end_s_kjid_TKY201307120416 (-> http://digital.asahi.com/area/aomori/articles/TKY201307120416.html?ref=comkiji_txt_end_s_kjid_TKY201307120416)

ベトナム-タンソンニャット空港、2020年には年間利用者2500万人、収容能力超える見通し

(viet-joによると)

ホーチミン市タンソンニャット国際空港は2020年までに年間利用者数が2500万人に達し、旅客処理能力を超える。このほど開催された東南部ドンナイ省でのロンタイン国際空港建設プロジェクトを評価する会議で、ベトナム民間航空局(CAAV)のライ・スアン・タイン局長がこのような予想を示した。8日付VNエクスプレスが報じた。

CAAVと交通運輸省は、ロンタイン国際空港の開業時期がタンソンニャット国際空港の処置能力を超える2020年以降となる見通しであることから、この期間の旅客需要に応えるために代替の空港が必要になると指摘した。

CAAVによると、2002～2012年の10年間における国内空港の利用者数増加率は平均で+14.5%増、一部の空港では+20%増加した。

(viet-jo)7/12

<http://www.viet-jo.com/news/tourism/130710022352.html> (-> <http://www.viet-jo.com/news/tourism/130710022352.html>)

ボーイング787関連:エチオピア空港、駐機中発火

(日経によると)

ロンドン・ヒースロー空港で12日、滑走路近くに停止中だったエチオピア航空の「ボーイング787型機」が発火した。機体上部のうち垂直尾翼の前方から火が上がった。ロイター通信によると、同空港の報道担当者は「機体内部からの発火」と説明している。同空港は滑走路の使用を一時停止し、鎮火後に再開した。

発火した航空機は同日にエチオピアの首都アディスアベバからロンドンに到着し、同日夜にアディスアベバに戻る予定だった。エチオピア航空は、787型機のバッテリートラブルが発覚した後、4月に世界で初めて改良バッテリーを搭載し商業運航を再開していた

(日経)7/13

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGR1200Z_S3A710C1000000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASGR1200Z_S3A710C1000000/)

ボーイング787関連: EASA、再度の運航停止は時期尚早

(ロイターによると)

エチオピア航空のボーイング787型機(ドリームライナー)がロンドンのヒースロー空港で火災を起こした問題で、欧州航空安全局(EASA)は12日、同機種が再度運航停止となる可能性について言及することは時期尚早との見解を示し

た。

同局の報道官は「ボーイングのスタッフが今後調査を行う見通しで、われわれは決定を注意深く見守る」と語った。

EASAは同機種を運航する欧州航空各社を管轄する一方、同機種の運行停止をめぐる決定については、米連邦航空局（FAA）が所管となっている。787型機は以前、バッテリーのトラブルで一時運航を停止したばかりだが、今回の火災がバッテリーの問題によるものかどうかは分かっていない。

（ロイター）7/13

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTJE96B02N20130712> (->

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTJE96B02N20130712>)